



ペンギン班

B - P ラストメッセージを読んで

 私はラストメッセージを読んで「幸せ」とは何かということを改めて考えさせられました。ベーデンパウエルは「幸せを得る本当の道は他の人を幸福にすることになる。」と言っています。これはとても難題だと思いました。口で言うのは簡単なことだけど、いざこれを実践しようとするとも大変だと思います。なかなかできることではないと思います。だからこそ、それができた時の他の人の「笑顔」「幸せ」「感謝」こそがベーデンパウエルの言うところの「本当の幸せ」ではないかと私は思いました。こう思えた時、はじめて人間は自分が最善を尽くしたのだという満足感の中で死ぬことができるのではないかと思いました。(T)

 僕がこのB P ラストメッセージを読んで最初に思ったことはベーデンパウエルは本当はすごい人だと思いました。どんなところがすごかったかということ、自分が幸福になるのではなく、他の人を幸福にすることが自分の幸福の本当の道だといっているところです。僕はこの言葉が一番心に残っています。なぜならこのベーデンパウエルは自分の幸福よりも相手の幸福を願っているのではないかと僕は思ったからです。僕がスカウトに入る前やこれを読む前は多分相手も幸福になって欲しいが、まず最初に自分の幸福を願うと思うからです。あともう一つ僕がベーデンパウエルのことですごいと思ったことがあります。それは幸福な人生を送り、幸福に死ぬことができるということが書いてあるところです。何故、心に残ったかということを受け継いだときよりよくして残すように努力するということがベーデンパウエルさんは自然や環境を守ろうとしていたことがわかるからです。多分、スカウトに入る前の僕なら自然や環境のことなどはほとんど考えなかったと思うからです。僕はこんなベーデンパウエルみたいに「すごい」と思われるスカウトになりたいと思いました。このことから僕は制服をき手いなくても、つねにモットーとスローガンを忘れずに、自分はスカウトだという自覚を持って行動したいと思います。

いつかはベーデンパウエルのような思いやりのある人になりたいです。(T)

 B - P の言ってる幸福は「役に立つ人になる」ということですが、私の考えは「幸福」はその人によって違うと思います。お金持ちが幸せな人もいるし、社会的に成功するのが幸せの人もいるし、わがままできるのが幸せの人もいると思います。私もB - Pと同じような考えで誰かのために何かをするのはとても楽しいし、それがうまく伝わらなくても、そのために一生懸命になることが幸せだと思います。でもみんなが同じ考えになるのは難しいと思います。自分勝手に過ぎる人がいるから警察がいて、そのおかげであん安全になっているし、いつも見ているテレビも芸能人の人がいるから面白いです。人の役に立つ幸せは返って来ると思います。私はクラス委員でクラスを良くしようとして初めは伝わらなくても、ずっと頑張ってるクラスが少しでも良くなるととてもうれしいです。人のために一生懸命になると何かしらの形で返ってくると思います。それが人の役に立つ幸福だと私は思います。(T)